KSKS ちいろばだより 270

二〇〇〇年十二月十二日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・五・六・八の日）発行

写真を眺める

ちいろば会理事 望月 麻生

古いアルバムめくり ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中 励ましてくれる人よ
晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔
思い出遠くあせても
おもかげ探して よみがえる日は 涙（なだ）そうそう

（作詞 森山良子 作曲 BEGIN（ビギン））

これは、名曲「涙そうそう」の歌詞です。私はこの歌がとても好きです。作詞者の森山良子さんは、若くして亡くなったお兄さんへの想いを、この詞に込めたのだそうです。皆さんは、古い写真を眺めるときがありますか？

西大和教会の事務室には、大切なアルバム集があります。教会ができたときから今に至るまでの写真が、数冊にわたってたくさん収められています。

そのアルバムには、ちいろば園の写真も多く入っています。ちいろば園は最初、西大和教会の隣にありました。当時の貴重な写真をたくさん見ることができます。建物をつくりはじめる時のセレモニーから、ちいろば園で楽しそうに作業する方々の姿、今も活躍する職員さんの若かりし頃など。

私は奈良に来てまだ 2年目です。「ちいろば園のことも、愛の園幼稚園のことも、教会のことも、もっと知っておきたい。」そんな思いから、時々このアルバムを開いて眺めています。

この方は、いつもみんなの話に出てくる、みんなに優しく声をかけてくれていた方。

この方は、みんなの写真をたくさん撮っていてくれた方。

この方は、子どもたちをとてもかわいがってくれていた方。

特に、いま天国におられる方々は、直接お目にかかったことも、お話をしたこともありません。それでも写真を通して、出会うことができるのです。教会のアルバムは私にとって、タイムマシーンみたいな存在です。

いま、スマートフォンを使う人たちは、何十冊ものアルバムを持ち歩いているようなものです。小さな画面の中にはたくさんの写真が眠っています。

ときどき、前に撮った写真を眺めてはいかがでしょう。懐かしい人たち、懐かしい思い出。そうしたものが、どれほど自分を支え、励まし、慰めてくれているかを、古い写真はときどき私たちに示してくれるのです。

小さなことが大きな差になる

グループホーム 主任　米田　守

知的障害のある方を支援するうえで本当に大切なのは、特別な技術や資格だけではなく、日常の中にある「ちょっとした気づき」や「さりげない配慮」です。たとえばグループホームでお茶をプラスチックの容器に移す場面でも、8分目に入れるか、あふれそうなほどいっぱい入れるかで、その後の使いやすさは大きく変わります。8分目であれば利用者の方は自分でコップに注ぎやすく、こぼす不安も減ります。一方で、なみなみと入れてしまえば、こぼしてしまったり、注ぐこと自体が怖くなってしまうこともあります。この違いはほんのわずかなようでいて、利用者の自立や安心感に直結する重要な配慮です。

食事の場面でも同様に支援者の姿勢が問われます。例えば、食器やお箸、スプーンなど取りやすい場所に置くことや食べにくい料理は本人の能力に合わせて大きさを調整するなど「どうすればその人が一番自然に行動できるか」を考えることが大切です。

また、日常の支援の中でも配慮は必要です。例えば、利用者の方が朝の出発前にテレビを見ながら落ち着いて過ごしている時間にもかかわらず、そのすぐ横で掃除機をかけ始める支援者がいるとします。もちろん掃除自体は必要な業務ですが、自分のやるべきことだけに意識が向き、利用者が今どのような時間を過ごしているのかという視点が抜けてしまえば、それは支援ではなく業務の消化になってしまいます。利用者の生活の場に入る仕事だからこそ、今掃除をする必要があるのか、少し後でもよいのか、利用者との会話や関わりを優先すべきではないかを考える姿勢が求められます。そのような配慮や関心がなければ、利用者との信頼関係やコミュニケーションを築くことはできません。

この仕事は一見すると些細なことの積み重ねに見えますが、その一つひとつが利用者の生活の質に大きく影響します。些細なことではありますが、こうした配慮ができる人とできない人とでは、利用者からの信頼や日々のコミュニケーションの質に大きな差が生まれます。気づきや思いやりを欠いたままでは、支援者側の自己満足にとどまり、結果として一方的な支援になってしまうことも少なくありません。そして、そのような支援は「自分は頑張っている」「一生懸命利用者のためにやっている」と支援者自身が錯覚しているに過ぎない場合もあります。本当に大切なのは、支援者が何をしたかではなく、その支援が利用者にとって安心や暮らしやすさにつながっているかという視点です。だからこそ、こうした小さな気づきや配慮を持てるかどうかは支援の質を左右する根本であり、それを大切にできないままでは、この仕事に適しているとは言い難いです。日々の細やかな配慮を積み重ね、利用者一人ひとりに向き合う姿勢があってこそ、はじめて信頼される支援につながるのです。

―ぼくも　わたしも　みんなが主役！！―

―吉井　紗英さんの場合―



私は吉井紗英です。軽作業2 グループでタオルにタグをつける作業を今年から始めています。タグの形は星形です。１枚ずつ並んでるタグは取りやすく、黄色の星形の枠におきます。最初穴をあける時、力を入れすぎて、くしを穴にいれすぎてタグが折れたりしました。そこでくしの先をテープで少し太くしたら力を入れても穴にいれすぎることはなくなり、タグは折れたり切れたりもしなくなりました！星形の枠の下はクッションがあるのできれいに穴をあけられます。







タグ紐はあけた小さい穴にとおしてからロックする穴にとおします。カチッと音がなればロックできています！　一度ロックしたら外せないので、最初は間違えてたらとドキドキしました。集中して疲れてしまう時もあるけど新しい作業は楽しいです！

―田口由里子さんの場合―



私が活動している園芸グループには畑での作業だけでもブルーベリーの木の剪定、収穫、草抜き、溝掃除など、色々な作業があって、それぞれの作業で使う道具が違います。



今までは職員に何を用意するのかを教えて貰って準備をしていましたが、今年から毎日朝の会で「今日使う道具」を説明するためのホワイトボードを使い始めたので、自分で必要な道具を確認して用意する事ができるようになりました。その他にも、「今日作業する場所」のホワイトボードも使い始めたので、畑のどこで作業するのかが分かりやすくなりました。みんなで一緒に準備して、一緒に作業の場所に行って、一緒に作業をしています



初めての評議員

ちいろば会評議員　谷口　英子

昨年の 6月からちいろば会の評議員をしています。評議員になるのは人生で初めての体験。私に何が出来るのか分からないのですが、少しでも力になりたいという思いで関わらせていただいています。これまでは一市民として関わってきました。子どもとブルーベリー狩りを楽しんだり、お友達とカフェでランチをしたり、映画の上映会に参加したり。そこから立場を少し変えて「ちいろば」と向き合うことになりました。私はお菓子作りや料理に興味があるので、カフェ事業や焼き菓子などに興味があります。もっとこうしたら？ああしたら？と提案したくなりますが、福祉事業所の運営はもっとスケールの大きな話です。改善提案の手がかりがあるようでない。評議員はなかなか難しい仕事です。

運営側の悩みの一つは慢性的な人材不足。スタッフには精神的・体力的な強さが求められますが、その労力に報酬が見合っておらず定着率が低い。ケア労働者の賃金が安すぎるのです。報酬体系の改善には息の長い要望や要請活動が必要になると思いますが、諦めてはいけないと思います。

「権利擁護・身体拘束適正化委員会」という話合いの場にも参加しました。漢字だらけでぎょっとしますが、要するに障害当事者の権利を守ること、身体拘束は原則しないけれど、やむを得ない場合のみ実施する等について話し合う場です。この委員会に先立ち、当事者による「みんなの会」が開かれ、嫌だなとかおかしいなと思ったことが出し合われます。「皆の前で注意されるのは恥ずかしいので別の場所で注意をして欲しい。」といった内容から作業が楽しかったことについてまで、活発に意見が出ています。自分から提案したり疑問を出したりしたことで何かが変わる経験は誰にとっても非常に大切です。手ごたえを感じますし、もっと関わりたいと思うようになります。どんどんやっていくべきですね。同時に、職員の皆さんの権利についても忘れず気にかけたいと思います。利用者の行動を通して一体今、その方にとって何が問題なのか、何がしたいのか等を推し量りながらの毎日です。職員さんの意見表明権も併せて確保する機会を増やしていけたらいいのではないかと思いました。



まだまだ頼りない新米評議員ですが、迷ったり困ったりしながら手探りで進んでいきたいです。どうぞご指導よろしくお願いいたします。

―タイから視察研修に来られました！！―

ちいろば会理事長　富田忠一

10月30日（金）、タイで教育支援を行っているタイ国認定の公益法人（NGO）「マレットファン」が主催する日本のインクルーシブ教育と障害者・児福祉を学ぶための視察研修でタイから 13名のお客様がちいろば園に来てくださいました。



「マレットファン」とちいろば会との出会いは、「絵の本ひろば」を主宰する加藤啓子さんのご紹介です。「マレットファン」を設立された 3名の方々のお一人、松尾久美さんは加藤啓子さんとお知り合いで、タイでの教育支援の一環として「絵の本ひろば」を取り入れておられます。今年の春、ちいろば園で開催した「絵の本ひろば」に松尾さんも参加くださり、障害をもつ人たちが主体的に「絵の本ひろば」の活動に参加し、様々な絵本と触れ合い、コミュニケーションを深めている姿に感銘して下さり、今回の視察先の一つにちいろば園を選んでくださいました。視察研修の当日はあいにくの空模様でしたが、加藤さんにもお越しいただき、絵の本ひろばも開催しながらの視察となりました。

視察に来られた方々の内訳は、タイで障害児の療育を行っておられる方、幼児教育の研究者、職業教育の関係者、障害をもつお子さんのお母さん、小児科医等で何らかの形で障害児・者の支援等に携わっておられるみなさんでした。ちいろば園の利用者が絵の本ひろばの準備から参加し、てきぱきと設営する様子やお気に入りの絵本に見入る姿、絵本を媒体にして利用者間や職員、タイからのお客さんも巻き込んで絵の本ひろばを楽しんでいる姿を観ていただくことができました。



ちいろば園利用者の自治組織「みんなの会」との懇談の席では、利用者の長尾さんが日本の旧優生保護法による強制不妊手術に言及し、「子どもを産み育てる権利を勝手に奪われることは許されない」という気持ちを話してくれました。タイで小児科医をされているプー(ニックネーム)さんは長尾さんの話しを受けて、タイでも障害者への介護負担を減らすために不妊治療を家族が希望し医師もそれに応じる状況が今でもあるが、長尾さんの話を聞いてそのような治療に疑問を持っていなかった自分を反省する想いと「タイに帰ったら本人の気持ちを無視してそのような治療を行うことは間違いであることを他の医師にも必ず伝えます。」と話してくださいました。



私たち職員もタイのみなさんとお話することで、普段、気づかないような自分たちの支援内容にも気づかせていただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

知って、学んで、いっしょに考えよう！
いまも残る ハンセン病問題！



第6回

架け橋 交流・講演会

◆記念講演◆ ～回復者から学ぶ～

最後は自由に生きたい！101歳 新たな門出

講　師：北野貞晴さん

と　き：2026 年 12 月 6 日(日)
ばしょ：三郷町文化センター　13:00～16:00

13:00～　開会行事　記念講演
14:30～　分科会　第1分科会 講師：家族訴訟原告番号 190 番さん
第2分科会 講師：山城清重さん
第3分科会 講師：Y.K さん

◆作品展・企画展◆ 12 月 3 日(木)～12 月 6 日(日)
三郷町文化センター展示室で開催

主 催 ： 架け橋 長島・奈良を結ぶ会 ／ 社会福祉法人ちいろば会

※ 参加申し込みは、架け橋 長島・奈良を結ぶ会 090-8575-1239(中森)
ちいろば会 0745-72-1923(奥田)もしくは Google フォームから



ちいろばクリスマスコンサート

～クリスマスにお贈りするフルートとチェンバロの調べ～

日時：2026年12月12日(土)
開場：14：00　開演：14：30
会場：ちいろば園
奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

～演奏者～
フルート：内田　尚子
チェンバロ：河野　まり子

～プログラム～

F.クープラン
第21オルドゥル(チェンバロ)

G.P.テレマン
12のファンタジーより
5番C-durと２番a-moll(フルート)

クーブラン：恋のうぐいす
ダカン：かっこう
ラモー：めんどり
(チェンバロ)

M.ブラーヴェ:ソナタ第2番
(フルートとチェンバロ)

C.P.E.バッハ
ハンブルガーソナタ
ト長調Nr.133
(フルート＆チェンバロ)

J.S.バッハ
イタリア協奏曲(チェンバロ)

J.S.バッハ
フルートソナタホ短調BWV1034
(フルート＆チェンバロ)

★大人：1200円　こども：(小学生以下)　1000円　スイーツセット付
★観覧希望の方は事前予約をお願いします
当日、席に空きがあれば当日も受け付けいたします
事前予約、お問い合わせは・・・ちいろば園　☎0745-72-1923
★ちいろば園⇔王寺駅北間　送迎します。（事前申し込み必要）
行き・・・王寺北(13：45発)　帰り・・・コンサート終了後発車

二〇〇〇年十二月十二日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・五・六・八の日）発行

★後援会費・ちいろばだより年間購読料（2026年7月1 日～2026年9月30日）
ありがとうございました。

篠原範子、上田和美、田中勲、社会福祉法人ひまわり、兼平淑子、益田典幸、網時子、浅井和子、吉岡由里子、礒道香織、辰己真奈美、宮田峰泰、稲葉耕一、梅垣千代子、忠澤美緒、窪美代子、ちいろばまつりかき氷ボランティア、ちいろばまつり焼きそばボランティア

以上　敬称は略させていただきます。

※　ちいろばだよりの配送停止をご希望の方は、ちいろば園までご連絡ください。

2026 クリスマスクッキー



二種類のクッキーが入っています。

★マカダミアナッツ＆チョコチップクッキー
マカダミアナッツがたっぷり入ったとてもリッチなクッキーです

★ココアクッキー
バンホーテンココアとクーベルチョコを使用した濃厚なクッキーです

クリスマス専用紙袋がご入用の場合は**別途30円**
紙袋のデザインは、写真と異なる場合があります。

1 袋　430円

販売期間：　11月24日～12月25日ご予約受付中！

※　ちいろば園は 12月29日～1月3日まで冬季休暇です。
※　年末年始のドンキーの営業は・・
ちいろば園ドンキー　　年末12月28日（月）まで年始1月4日（月）から営業
MAGRI no ドンキー　　年末12月25日（金）まで年始1月5日（火）から営業
〇12 月 23 日（水）はちいろば園ドンキー、MAGARI no ドンキーとも臨時休業

KSKS　ちいろばだより
編集人／　ちいろば会後援会　　年 4 回　頒価 50 円
連絡先／　奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14
TEL:0745-72-1923　　FAX:0745-72-1924
ホームページ：https://www.chiiroba.or.jp
発行人／　関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町 2-2　東興ビル 4 F